

海浜植物の観察観察

作成 西岡 登 (NPO 法人石川県自然史センター副理事長)

◎ 観察ポイントと調査・記録方法

【観察ポイント】

- ① 海浜の植物はどのようなストレスを受け、どのように適応しているか。
- ② 波打ち際（汀線）から内陸へと、生育する植物の種類と数、生育状況などがどう変化するか。
- ③ 海浜に進出している内陸性の植物はないか。
- ④ 植生と地形等とはどのような関係があるか。
- ⑤ 植物が地形に変化を与えている例はないか。

【調査方法】

環境がある方向に少しずつ変化している場合、それに伴って生物の分布がどう変化していくのか調べる時有効なのが、トランセクト法である。

海浜植物の場合、汀線から内陸に向かって、植物の分布と個体数(多さ)を調査するには、ベルトトランセクト法(帯状法。何mか毎にコードラートを取り、その中に出現するすべての植物名と被度を調べる)を用い、分布状態だけを調査するには、ライントランセクト法(線状法)を用いる。

今回は簡易的なライントランセクト法で海浜植物の調査を行う。

参考

*被度：植物の地上部が方形枠を覆っている面積の割合。ブラウン・ブランケ法（改変）に従って、次のような被度階級（被度面積）で示す。

5 (75～100%)	4 (50～75%)	3 (25～50%)	2 (10～25%)	1 (～10%)	未記入(0%)
-------------	------------	------------	------------	----------	---------

注1、同種の重なりは一層として測定するが、異種の重なりは別々として測定する。

注2、被度が極めて低い場合(0～1%)には、+という被度階級で示すことがある。

*海浜のように一般に被度の低いところでは、これとは別に下図のような、フルトとセルナンダーの被度階級が使われる。

5	被度が 50%以上
4	被度が 25～50%
3	被度が 12.5～25%
2	被度が 6.25～12.5%
1	被度が 6.25%以下

◎ 調査方法

準備：海浜植物等調査表・筆記具・バインダー、巻き尺、資料(海浜植物写真)

方法：① 1 班 4 名で 10 班に分かれる。（1 つの巻き尺の左右に 2 つの班がつく。）

② 汀線から内陸に向かって垂直に巻き尺を伸ばし、海岸林(クロマツ植林) にぶつかるまで (約 180m) 調査を行う。

注意：巻き尺は砂丘丘陵地形に沿って伸ばされるので、汀線から内陸への水平な距離を表していないことに注意。

③ 巻き尺の設置は浜全体を見て、植物群落の分布頻度の高い場所を選定する。

④ 汀線から 10m ごとに、巻き尺の線上及びその周辺の植物名を調査記録用紙に記録する。

※ 各班のデータを集約し、後日調査結果の表を送ります。